

平成 25 年度 調査研究

学校間の接続に関する調査研究

# 外国語活動

## ・外国語

埼玉県立総合教育センター  
教育課程担当

## 【外国語】

### 【小学校外国語活動・中学校外国語科】

#### 1 調査研究の視点

英語教育における小中連携では、授業参観や小中の教師による合同研修会など、様々な取組が行われている。しかし、2011年度の文部科学省の調査によれば、互いの校種の指導目標、指導内容、指導方法等を把握し、児童生徒の実態に基づいて系統的な教育計画を作成する「小中連携したカリキュラムの作成」に取り組んでいる小・中学校は8.6%にすぎない。授業における指導方法の工夫改善や教材の開発には、児童生徒の実態の把握が不可欠であることは言うまでもない。そこで二次次は、小学校外国語活動「自信あり!リスト」、中学英語「Can-do リスト」の調査機能を活用し、児童生徒の英語教育に関する実態を踏まえ、指導方法の工夫改善と教材の開発に取り組む。

#### 2 研究のテーマ

小学校外国語活動「自信あり!リスト」と中学英語「Can-do リスト」を活用した授業改善  
～児童生徒の実態に基づいた指導方法の工夫改善と教材開発～

本研究の目的は、小学校外国語活動「自信あり!リスト」、中学英語「Can-do リスト」による調査結果を踏まえ、児童生徒の実態を把握し、その実態に基づいた指導方法の工夫改善と教材開発に取り組むことである。

#### 3 昨年度の取組

昨年度は、小中の教師が連携、協力し、小学校外国語活動「自信あり!リスト」、中学英語「Can-do リスト」という2つのリストを作成した。また、補助資料として「Let's enjoy English カルテ」、「リスト項目説明資料」を作成した。これらの資料のねらいは、小・中学校の教師が、互いの校種で行われている英語教育を相互理解し、小中連携を深めることである。指導方法の工夫改善や教材の開発には、児童生徒の実態の把握が不可欠である。そこで、英語教育の学習の成果を把握するための調査機能を上記の二つのリストに付与し、二次次の調査研究において活用することにした。

#### 4 本年度の取組

(1) 小学校外国語活動「自信あり!リスト」、中学英語「Can-do リスト」の児童生徒による自己評価の結果分析

##### ① 小学校外国語活動「自信あり!リスト」の結果分析

ア 「自信あり!リスト（5年生用）」について

本年度の1学期、進級して間もないA小学校の6年生児童100名を対象に、資料1のリストを自己評価させた。4段階評価で、「とても自信がある」、「自信がある」と回答し

た児童は「自信度が高い＝自信がある」、「あまり自信がない」、「自信がない」と回答した児童は「自信度が低い＝自信がない」とみなして集計を行った。

全 18 項目のうち、13 項目に対して 70%以上の児童が「自信がある」と回答しており、概ね良好な結果である。[調査結果の分析は資料 2 を参照]

イ 「自信あり!リスト (6年生用)」について

昨年度、卒業を間近に控えた B 小学校と C 小学校の 6 年生 100 名を対象に、資料 3 のリストを自己評価させた結果が資料 4 である。集計については、5 年生用と同様に行った。

全 12 項目のうち、70%以上の児童が「自信あり」と回答している項目は 4 つである。5 年生に比べて、6 年生になると学習内容も少し難しくなり、週 1 時間という時数の中では、十分に英語に慣れ親しんでいくのは容易ではない可能性がある。

[調査結果は資料 4 を参照]

## ② 中学英語「Can-do リスト」の結果分析

昨年度の 3 月の半ば、卒業を間近に控えた D 中学校と E 中学校の 3 年生 172 名を対象に、資料 5 を自己評価させた結果が資料 6 である。資料 5 は Can-do リストなので、生徒たちができると判断した場合はチェック欄に「○」、そうでない場合は「無印」で回答させた。

70%以上の生徒たちが「できる」と判断した項目数は 7 つ（「聞く」 2 つ、「話す」 2 つ、「その他」 3 つ）である。7 つの項目の中に「読む」、「書く」は含まれていない。音声を中心とする「聞く」、「話す」は、小学校外国語活動で慣れ親しむ活動が行われている。また、言語習得は、第一言語であっても、ある言語を十分に聞いたのちに、少しずつ発話が見られ、そのあとで読むことや書くことへと広がっていく。このような過程を考えてみても、「聞くこと」や「話すこと」に「できる」の項目が集中している結果は納得できるものであろう。[調査結果は資料 6 を参照]

## (2) 小学校外国語活動における実践事例（「バースディハント」）について

小学校外国語活動「自信あり!リスト (6年生用)」の調査結果では、「項目③：自分の誕生日を言う」の自信度が 59%であった。そこで、月の名前や序数、‘My birthday is ~.’等の誕生日に関する英語表現に慣れ親しませるために、「バースディハント」という学習活動を考案し、教材を作成した。繰り返し読み上げられるスポーツ選手や芸能人、歴史上の人物等の誕生日を聞き取り、ペアで競い合うカードを活用した学習活動である。A 小学校の 2 学級で、調査研究委員が教材を実際に活用し、その効果を検証した。

[実践事例「バースディハント」については資料 7 を参照]

## (3) 中学校外国語科における実践事例（「My Opinion (マイピニオン)」）について

中学英語「Can-do リスト」を活用した調査では、「書くこと」の 6 つの項目のうち、5 つの項目で「できる」が 30%台に留まった。そこで、生徒たちが苦手とする「書くこと」の 5 項目の中から「項目 5：自分の意見や感想を 2～3 文の簡単な文章で書くことができる」を取り上げることにした。この言語活動に取り組みせることで、学習指導要領の「書くこと」の言語活動にある「聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること」、「身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと」を充実させることも期待できる。

D中学校とE中学校において、調査研究委員が「My Opinion (マイオピニオン)」という学習活動に取り組んだ。これは、教科書の本文を1レッスン読み終えたあと、自分の意見や感想を簡単な英文で書く活動である。「My Opinion」のワークシートには、生徒たちが自分の意見や感想を英語で書くときのモデルとして、3名分の意見が掲載されている。

[実践事例「My Opinion (マイオピニオン)」については資料8参照]

#### (4) 「丁寧な言い方でたずねたり、答えたりする」言い方に慣れ親しませる授業実践

小学校外国語活動「自信あり!リスト (5年生用)」の調査結果では、「項目⑬：欲しいものについて、ていねいな言い方でたずねたり、答えたりする」の自信度が49%であった。このような実態を踏まえ、A小学校において、調査研究委員が、この自信度を向上させるための授業実践に取り組んだ。「チャンツ」、「綿密な指導計画」、「評価・支援の工夫」の3つを柱として、「What would you like?」「I'd like ~ .」等の表現に慣れ親しませることをねらいとしている。

[「丁寧な言い方でたずねたり、答えたりする」言い方に慣れ親しませる授業実践については資料9参照]

## 5 本年度の成果と課題

### (1) 成果

#### ①実践事例「バースディハント」について

A小学校の2学級で、「バースディハント」を約2か月間実施し、事後に61人を対象にアンケートを行った。アンケートは4段階スケールで、項目は「①有名人の誕生日を聞き取ることができる」、「②誕生日を英語でたずねることができる」、「③自分の誕生日を英語で言うことができる」の3項目である。結果は次の通りである。

表1 アンケート結果 (バースディハント)

質 問	とても自信がある	自信がある	あまり自信がない	自信がない
①有名人の誕生日を聞き取ることができる	28%	46%	16%	10%
②相手に誕生日を英語でたずねることができる	10%	39%	39%	12%
③自分の誕生日を英語で言うことができる	33%	43%	16%	8%

「とても自信がある」と「自信がある」を合わせた割合は、「項目①：74%」、「項目②：49%」、「項目③：76%」である。昨年度末の調査では、項目③の数値は59%であり、児童たちが「バースディハント」の活動を通して誕生日に関する表現の自信度を高めることができたようである。また、この学習は「聞き取り」の活動であり、項目①の自信度の数値の高さは期待通りの成果である。

#### ②実践事例について「My Opinion (マイオピニオン)」について

D中学校とE中学校の3年生を対象に、「My Opinion (マイオピニオン)」を2～3回実施し、事後に155人を対象にアンケートを行った。その結果の一部が次の表2である。

表2 アンケート結果 (My Opinion)

質 問	できる	だいたいできる	あまりできない	できない
あなたは、自分の感想や意見を2～3文の簡単な文章で書くことができますか。	5%	44%	39%	12%

昨年度に実施した「中学英語 Can-do リスト」による調査で、項目①に対して「できる」と答えた生徒は 37%であった。表2の「できる」、「だいたいできる」を合わせた割合は 49%であり、期待した成果が表れている。Can-do リストを活用し、達成度が低い項目については、生徒の実態に十分に配慮しながら、授業の中で、目標が明確な学習活動に取り組みさせていくことが大切である。

### ③「丁寧な言い方でたずねたり、答えたりする言い方」に慣れさせる活動について

「チャンツ」、「緻密な指導計画」、「評価・支援の工夫」を柱として、「丁寧な言い方でたずねたり、答えたりする言い方」に慣れさせる取組は、自信がある児童の割合が 97%に達するという成果を収めることができた。指導方法や評価の工夫、教材の開発によって、子どもたちが苦手とする学習項目に慣れ親しませ、自信度を上げることができる指導事例として、大いに参考となる取組である。

## (2) 課題

「バースディハント」のアンケートにおいて、「項目②：相手に誕生日を英語でたずねることができる」の自信度は、「とても自信がある」と「自信がある」を合わせて 49%であり、他の 2項目よりも低い。これは、「バースディハント」が基本的には聞き取りの学習だからであろう。「聞くこと」と「話すこと」の自信度をバランスよく伸ばすためには、インタビュー活動等を適切に取り入れていくことが望ましいであろう。

「My Opinon (マイ オピニオン)」では、事後のアンケートで約半数(51%)の生徒たちが「あまりできない」、「できない」と回答している。このように回答している生徒たちのアンケートの記述欄には、「①文章にするのが大変」、「②書き方が分からない」、「③自分の持っている感想や意見を英語で伝えてみたいと思わない」というような記述が見られる。①については、段階的な指導等が必要であろう。例えば、1年生の頃から「1文+α」で感想や意見を継続的に言わせたり、書かせたりする活動に取り組みさせるような指導が考えられる。②については、特定のトピックについて必要な単語のリスト、よく使う英語表現集、感想・意見を書くためのフォーマットを提供するなどのきめ細かい支援が大切であろう。また、③については、生徒たちが感想や意見を表現したくなるような魅力的なトピックを発掘し、提供することが望ましい。また、英語は言葉であり、自分の思いや考えを伝える道具であるという意識を高めていくことも必要であろう。

## 6 研究のまとめ

小学校外国語活動「自信あり!リスト」と中学英語「Can-do リスト」は、それぞれの校種で行われている英語教育の相互理解を進め、小中連携を深めるために作成した資料である。本年度は、このリストの調査機能を活用して把握した児童生徒の実態に基づき、指導方法の工夫改善と教材開発に取り組んだ。「リストの交換」、「リストを活用して把握した児童生徒に関するデータの共有」、「児童生徒の実態に基づいた指導の取組とその効果の検証結果の共有」のように、リストを活用した具体的な取組は、コミュニケーションの向上につながっていくであろう。

適切な行動目標をリスト化し、その目標を学習者と共有する。学習の成果をリストに基づいて検証し、さらなる授業改善に取り組む。このようなサイクルに基づく指導は、コミュニケーション能力を育成する有効な手立てのひとつであると考えられる。

# 【高等学校外国語】

## 1 Preface

It has been some time since the last education reform. A great effort has been made to coordinate systemically across educational levels, but there is still a great divide between schools. This makes it difficult to improve opportunities and chances of academic success throughout students' entire educational lives. It is essential that we undertake effective measures to bridge this divide.

## 2 研究テーマ

“Language Teaching Assessment”の作成と  
学習到達度評価を活用した教科指導のストラテジー

中・高接続期における学習の円滑な移行は、重要な課題である。中学校で積み上げられた学習成果を損なうことなく、高等学校の英語学習に円滑に結びつけ、効果的な学習指導の展開が求められている。しかし、現状としては、それぞれの英語学習の実態についての相互理解は不十分である。高等学校では、中学校での英語学習に関する情報収集に取り組んではいるが、十分に把握しているとは言えない。

中・高接続期に効果的な学習指導を展開するためには、中学校と高等学校が相互理解を深め、高等学校の英語学習に円滑に接続できる具体的な学習指導のあり方を検討する必要がある。そこで、中・高連携による“Language Teaching Assessment”（学習到達度による語学教育評価）の作成と実施、学習到達度のフィードバックを基にした、教科指導のストラテジーとブリッジ教材の開発を研究テーマとした。

## 3 昨年度の取組

昨年度の調査研究については、県内の中学校教師、及び中学校3年生にアンケート調査を行い、集計結果を分析した。中学校での英語学習に関する実態把握を通して、中・高接続に関する課題を考察し、高校入学時に生徒が抱える問題点を明確にした。小・中・高合同協議を通して、特に文法指導に改善すべき点があることを認識した。また、教科指導に関して、異校種間の相互理解を深めることもできた。

文法知識については、高等学校での英語学習において不可欠であることから、具体的な調査を行った。その結果、生徒と教師、ともに文法に不安を抱えている実態を把握した。また、中学生への英語学習に対する意識調査により、生徒の学習意欲の喚起、維持に対する音声指導の効果を再認識した。併せて、教科指導のストラテジーを立てるためにも、学習到達度の調査、評価が不可欠であるとわかった。

## 4 本年度の取組

### (1) “Language Teaching Assessment”の作成と実施

“Language Teaching Assessment”の作成にあたっては、高等学校での授業を基に、リスニングやスピーキングなどの4技能をそれぞれカテゴリーとした。学習到達度の評価項目として“Criteria”（語学教育全般の項目としての評価規準）を設定し、“Criteria”を基に、各学校の学習目標に併せて具体的に設定できる“Standard”に追加することで、より実際的な評価基準の設定も可能とした。

評価については、次の通り、4段階で記入する形式を採用した。

- 4: “Can do easily”
- 3: “Can do under normal circumstances”
- 2: “Can do with difficulty”
- 1: “Can’t do”

評価項目の作成の際には、学習指導要領の他、文部科学省初等中等教育局や国立教育政策研究所等の資料を参考にした。また、小・中学校教師からの意見も取り入れ、小・中学校での学習指導も踏まえて作成した。“Language Teaching Assessment”は、本来、教師による学習到達度評価として用いるためのものだが、生徒の学習自己評価としても用いることができるよう設計した。

## (2) “Language Teaching Assessment”による学習自己評価と検証

本年度は高等学校1年生を対象に学習自己評価として実施した。その結果、生徒が不得意と感じている学習項目が明確になった。4技能の内、リスニングとリーディングについては生徒の自己評価が高く（平均2.7/4点）、スピーキングとライティングについては低く評価する傾向が見られた（平均2.2/4点）。学習自己評価の結果を検証し、各技能についてそれぞれ以下の通り分析した。

### ① リスニング

比較的長い文章のリスニングは困難であるものの、基礎力があり学習に取り組む姿勢も良好なので、正しい指導を継続することで大きく伸ばせる。

### ② スピーキング

生徒はALTに対しての質問が難しいと感じていることから、疑問文の組み立てが困難であることがわかる。疑問文に慣れさせる工夫が必要である。

### ③ リーディング

教科書以外の英文に触れる機会がほとんどないため、語の意味を類推する作業に慣れていない。授業を通して、多くの英文に触れさせることで改善できる。

### ④ ライティング

生徒は説得力のある英文を書くことに困難を感じている。英作文の練習を徹底する他、難易度や量など生徒の学習段階に見合った教材の工夫が必要である。

## (3) 教科指導のストラテジーとブリッジ教材

調査により明確になった問題点について、具体的なストラテジーを立て、的確に対応することで学習効果は劇的に上がる。今回は生徒の学習自己評価として年度途中に実施したことで、現状把握の他、不足部分を補う補助教材作りの参考となった。そうして完成した補助教材を年度当初に導入できれば、中・高接続期のブリッジ教材として利用することも可能である。

## 5 成果と課題

今年度の調査研究で特筆すべき点は、“Language Teaching Assessment”の作成に大きな効果を見出したことである。評価結果を踏まえた学習指導ストラテジーや教材作成など、その利用価値は高い。また、作成にあたって、小・中学校教師との協議を通して異校種の学習指導を知り、学習指導の在り方を再認識することもできた。今後も中・高連携を推進し、校種を越えた外国語教育を目指すことが肝要である。

## 6 Conclusion

It will undoubtedly require great effort to improve students' educational opportunities and academic success. However, with coordination and cooperation across schools, it is feasible that effective measures can be found to bridge the current divide.

# 自信あり！リスト 5年生

資料1

5- Name \_\_\_\_\_

★項目ごとに、自己評価しよう！

【 😊とても自信がある 😊自信がある 😞あまり自信がない 😞自信がない 】

項目	コミュニケーションの場面		あなたの自信度	Hi, friends! の Lesson
あいさつ	①かんたんなあいさつをする。	Hello. Nice to meet you. Thank you. Good-bye.	😊😊😞😞	1
	②相手に体の調子をたずねたり、答えたりする。	Hello. How are you? I'm fine, thank you.	😊😊😞😞	2
	③表情やジェスチャーをつけて、感情や様子を伝える。	I'm hungry. (happy, sleepy など)	😊😊😞😞	2
自己紹介	④自分の名前を言う。	Hello. My name is ~.	😊😊😞😞	1
	⑤相手に名前をたずねる。	What's your name?	😊😊😞😞	1
	⑥自分の好きなものやきらいなものを言う。	I like ~. I don't like ~.	😊😊😞😞	4
数字	⑦1～10までの数を言う。	one, two, three..., ten	😊😊😞😞	3
	⑧11～20までの数を言う。	eleven, twelve..., twenty	😊😊😞😞	3
	⑨21～30までの数字を言う。	twenty one ...,thirty	😊😊😞😞	6
	⑩数をたずねる。	How many pencils?	😊😊😞😞	3
インタビュー	⑪相手に好ききらいをたずねたり、答えたりする。	Do you like ~? Yes, I do. / No, I don't.	😊😊😞😞	4
	⑫相手に何が好きかをたずねる。	What do you like?	😊😊😞😞	5
	⑬欲しいものについて、ていねいな言い方でたずねたり、答えたりする。	What would you like? I'd like a hamburger.	😊😊😞😞	9
アルファベット	⑭アルファベットの大文字を言う。	アルファベットの大文字 (A～Z)	😊😊😞😞	6
学校での学習や活動	⑮身の回りの物が何かとたずねたり、答えたりする。	What's this? It's a piano.	😊😊😞😞	7
	⑯曜日を言う。	Sunday, ...,Saturday	😊😊😞😞	8
	⑰教科を言う。	math, science, music...など	😊😊😞😞	8
	⑱時間割についてたずねたり、答えたりする。	What do you study on ~? I study ~on ~.	😊😊😞😞	8

★一年間をふり返って★

# 自信あり！リスト 5年生

資料2

5- Name \_\_\_\_\_

左は「自信あり」、右は「自信なし」の割合（%）を表す

【 😊とても自信がある 😊自信がある 😐自信がない 😞自信がない 】

項目	コミュニケーションの場面		集計結果(%)		Hi, friends! の Lesson
			自信あり	自信なし	
あいさつ	①かんたんなあいさつをする。 Hello. Nice to meet you. Thank you. Good-bye.	84	16	1	
	②相手に体の調子をたずねたり、 答えたりする。 Hello. How are you? I'm fine, thank you.	73	27	2	
	③表情やジェスチャーをつけて、 感情や様子を伝える。 I'm hungry. (happy, sleepy など)	59	41	2	
自己紹介	④自分の名前を言う。 Hello. My name is ~.	91	9	1	
	⑤相手に名前をたずねる。 What's your name?	75	25	1	
	⑥自分の好きなものやきらいなもの を言う。 I like ~. I don't like ~.	80	20	4	
自己紹介・ インタビュー	⑦1～10までの数を言う。 one, two, three,..., ten	93	7	3	
	⑧11～20までの数を言う。 eleven, twelve..., twenty	77	23	3	
	⑨21～30までの数字を言う。 twenty one ...,thirty	64	36	6	
	⑩数をたずねる。 How many pencils?	79	21	3	
インタビュー	⑪相手に好ききらいをたずねたり、 答えたりする。 Do you like ~? Yes, I do. / No, I don't.	79	21	4	
	⑫相手に何が好きかをたずねる。 What do you like?	73	27	5	
	⑬欲しいものについて、ていねいな 言い方でたずねたり、答えたりする。 What would you like? I'd like a hamburger.	49	51	9	
アルファベット	⑭アルファベットの大文字を言う。 アルファベットの大文字 (A～Z)	87	13	6	
学校での 学習や活動	⑮身の回りの物が何かとたずねたり、 答えたりする。 What's this? It's a piano.	57	43	7	
	⑯曜日を言う。 Sunday, ...,Saturday	74	26	8	
	⑰教科を言う。 math, science, music...など	70	30	8	
	⑱時間割についてたずねたり、答えたりする。 What do you study on ~? I study ~on ~.	52	48	8	

# 自信あり！リスト 6年生

資料3

6- Name \_\_\_\_\_

\*項目ごとに、自己評価しよう！

【 😊とても自信がある 😊自信がある 😞あまり自信がない 😞自信がない 】

項目	コミュニケーションの場面		あなたの自信度	Hi, friends! の Lesson
アルファベット	①アルファベットの小文字を言う。	アルファベットの小文字 (a ~ z)	😊 😊 😞 😞	1
数字	②31～100までの数字を言う。	thirty one, ...forty one, fifty, sixty, seventy, eighty, ninety, hundred	😊 😊 😞 😞	1
自己紹介・ インタビュー	③自分の誕生日を言う。	My birthday is March eighteenth.	😊 😊 😞 😞	2
	④相手に誕生日をたずねる。	When is your birthday?	😊 😊 😞 😞	2
	⑤自分ができること、できないことを言う。	I can ~. I can't ~.	😊 😊 😞 😞	3
	⑥相手にできることをたずねたり、答えたりする。	Can you ~? Yes, I can. / No, I can't.	😊 😊 😞 😞	3
	⑦将来つきたい職業についてたずねたり、答えたりする。	What do you want to be? I want to be a teacher. (nurse, pilot, singer など)	😊 😊 😞 😞	8
	⑧行きたい国についてたずねたり、言ったりする。	Where do you want to go? I want to go to Italy.	😊 😊 😞 😞	5
道案内	⑨目的地への行き方をたずねたり、言ったりする。	Where is the school? Go straight. Turn right / left.	😊 😊 😞 😞	4
日常生活	⑩持っているかどうかたずねたり、答えたりする。	Do you have ~ ? Yes, I do. / No, I don't.	😊 😊 😞 😞	1
	⑪時刻をたずねたり、言ったりする。	What time is it? It's ten forty.	😊 😊 😞 😞	6
	⑫一日の生活の時刻についてたずねたり、言ったりする。	What time do you get up? I get up at seven.	😊 😊 😞 😞	6

★1年間をふり返って★

# 自信あり！リスト 6年生

資料4

6- Name \_\_\_\_\_

左は「自信あり」、右は「自信なし」の割合（%）を表す

【 😊とても自信がある 😊自信がある 😐自信がない 😞自信がない 】

項目	コミュニケーションの場面	集計結果(%)		Hi, friends!の Lesson
		自信あり	自信なし	
アルファベット	①アルファベットの小文字を言う。 アルファベットの小文字 (a ~ z)	80	20	1
数字	②31～100までの数字を言う。 thirty one, ...forty one, fifty, sixty, seventy, eighty, ninety, hundred	63	37	1
自己紹介・インタビュー	③自分の誕生日を言う。 My birthday is March eighteenth.	59	41	2
	④相手に誕生日をたずねる。 When is your birthday?	67	33	2
	⑤自分ができること、できないことを言う。 I can ~. I can't ~.	72	28	3
	⑥相手にできることをたずねたり、答えたりする。 Can you ~? Yes, I can. / No, I can't.	67	33	3
	⑦将来つきたい職業についてたずねたり、答えたりする。 What do you want to be? I want to be a teacher. (nurse, pilot, singer など)	72	28	8
	⑧行きたい国についてたずねたり、言ったりする。 Where do you want to go? I want to go to Italy.	55	45	5
道案内	⑨目的地への行き方をたずねたり、言ったりする。 Where is the school? Go straight. Turn right / left.	48	52	4
日常生活	⑩持っているかどうかたずねたり、答えたりする。 Do you have ~ ? Yes, I do. / No, I don't.	70	30	1
	⑪時刻をたずねたり、言ったりする。 What time is it? It's ten forty.	65	35	6
	⑫一日の生活の時刻についてたずねたり、言ったりする。 What time do you get up? I get up at seven.	48	52	6

★1年間でふり返って★

## 中学英語 Can-doリスト

☆各項目で「あてはまる」「だいたいあてはまる」と思うものに○をつけてみましょう。

技能	項目	チェック欄	
聞く	1	ゆっくり(または繰り返し)簡単な英語で話してもらえば、日常生活の身近な話題に関する話を聞いて、その内容を理解することができる。(学校、部活動、休日の話など)	
	2	ゆっくり(または繰り返し)簡単な英語で話してもらえば、興味・関心のある話題に関する話を聞いて、その内容を理解することができる。(趣味に関する事、好きなスポーツや音楽のことなど)	
	3	ゆっくり(または繰り返し)簡単な英語で話してもらえば、道案内を聞いて、その内容を理解することができる。	
	4	ゆっくり(または繰り返し)簡単な英語で話してもらえば、アナウンスを聞いて、重要な情報を理解することができる。(集合場所、乗り物の出発や到着の時刻など)	
	5	ゆっくり(または繰り返し)簡単な英語で話してもらえば、授業中に日本人の英語の先生やALTが行うスキットなどの内容を理解することができる。	
	6	授業中に、先生の英語での指示や説明を聞いて、その内容を理解することができる。	
話す	1	簡単な英語で、自己紹介をすることができる。	
	2	自分の好きなことについて、簡単な英語で話すことができる。(趣味、スポーツ、音楽など)	
	3	日常生活の行動について、簡単な英語で話すことができる。 (例:I get up at six. / I play tennis after school.)	
	4	自分の予定について、簡単な英語で話すことができる。(例:I'm going to practice soccer next Sunday.)	
	5	What, Who, Where, When, Howなどで始まる質問に簡単な文で答えたり、相手に質問したりすることができる。	
	6	身近な話題について、ALTと簡単なやりとりができる。	
読む	1	身近な話題に関する簡単な文章を理解することができる。(学校生活、部活動、趣味など)	
	2	教科書の読み物教材など、短くて簡単な物語の大まかな内容を理解することができる。 (簡単な伝記や童話など)	
	3	辞書を使わなくても、短い手紙やEメールなどの内容を理解できる。	
	4	初めて見る文章でも、2年生の教科書程度の文章なら、意味を考えながらだいたい音読できる。	
	5	2年生の教科書をスラスラ音読できる。	
	6	3年生の教科書を自分で音読できる。	
書く	1	自己紹介を10文程度の文章で書くことができる。	
	2	自分の好きなことなどについて、5文程度のまとまりのある文章で書くことができる。	
	3	身近な人物などを紹介する文章を、簡単な英語で書くことができる。	
	4	絵はがきやカード、Eメールなどで簡単なメッセージを書くことができる。	
	5	自分の意見や感想を2～3文の簡単な文章で書くことができる。	
	6	曜日、月の名前、季節、数字(1～20)を表す単語を正確に書くことができる。	
その他	1	英和辞典を使うことができる。	
	2	和英辞典を使うことができる。	
	3	人名や地名などを、ローマ字で読んだり書いたりできる。	

☆中学校3年間の英語学習でどんな力が身についたと思いますか？自由に書いてみましょう。

## 中学英語 Can-doリスト

☆各項目で「あてはまる」「だいたいあてはまる」と思うものに○をつけてみましょう。

技能	項目	チェック欄	
聞く	1 ゆっくり(または繰り返し)簡単な英語で話してもらえば、日常生活の身近な話題に関する話を聞いて、その内容を理解することができる。(学校、部活動、休日の話など)	80%(138人)	
	2 ゆっくり(または繰り返し)簡単な英語で話してもらえば、興味・関心のある話題に関する話を聞いて、その内容を理解することができる。(趣味に関すること、好きなスポーツや音楽のことなど)	82%(141人)	
	3 ゆっくり(または繰り返し)簡単な英語で話してもらえば、道案内を聞いて、その内容を理解することができる。	66%(113人)	
	4 ゆっくり(または繰り返し)簡単な英語で話してもらえば、アナウンスを聞いて、重要な情報を理解することができる。(集合場所、乗り物の出発や到着の時刻など)	57%(98人)	
	5 ゆっくり(または繰り返し)簡単な英語で話してもらえば、授業中に日本人の英語の先生やALTが行うスキットなどの内容を理解することができる。	49%(84人)	
	6 授業中に、先生の英語での指示や説明を聞いて、その内容を理解することができる。	53%(91人)	
話す	1 簡単な英語で、自己紹介をすることができる。	83%(143人)	
	2 自分の好きなことについて、簡単な英語で話すことができる。(趣味、スポーツ、音楽など)	83%(142人)	
	3 日常生活の行動について、簡単な英語で話すことができる。 (例:I get up at six. / I play tennis after school.)	65%(111人)	
	4 自分の予定について、簡単な英語で話すことができる。(例:I'm going to practice soccer next Sunday.)	54%(93人)	
	5 What, Who, Where, When, Howなどで始まる質問に簡単な文で答えたり、相手に質問したりすることができる。	59%(101人)	
	6 身近な話題について、ALTと簡単なやりとりができる。	20%(34人)	
読む	1 身近な話題に関する簡単な文章を理解することができる。(学校生活、部活動、趣味など)	68%(117人)	
	2 教科書の読み物教材など、短くて簡単な物語の大まかな内容を理解することができる。 (簡単な伝記や童話など)	65%(112人)	
	3 辞書を使わなくても、短い手紙やEメールなどの内容を理解できる。	24%(42人)	
	4 初めて見る文章でも、2年生の教科書程度の文章なら、意味を考えながらだいたい音読できる。	56%(97人)	
	5 2年生の教科書をスラスラ音読できる。	45%(78人)	
	6 3年生の教科書を自分で音読できる。	37%(63人)	
書く	1 自己紹介を10文程度の文章で書くことができる。	34%(58人)	
	2 自分の好きなことなどについて、5文程度のまとまりのある文章で書くことができる。	52%(90人)	
	3 身近な人物などを紹介する文章を、簡単な英語で書くことができる。	37%(63人)	
	4 絵はがきやカード、Eメールなどで簡単なメッセージを書くことができる。	32%(55人)	
	5 自分の意見や感想を2～3文の簡単な文章で書くことができる。	37%(64人)	
	6 曜日、月の名前、季節、数字(1～20)を表す単語を正確に書くことができる。	34%(59人)	
その他	1 英和辞典を使うことができる。	中学生172名にアンケート。 70%以上が「できる」と回答した項目はピンク。 50%未満のみが「できる」と回答した項目はみずいろ。	78%(135人)
	2 和英辞典を使うことができる。		70%(120人)
	3 人名や地名などを、ローマ字で読んだり書いたりできる。		79%(136人)

☆中学校3年間の英語学習でどんな力が身についたと思いますか？自由に書いてみましょう。

## 小学校外国語活動「自信あり!リスト」、中学英語「Can-do リスト」の結果分析

### ① 小学校外国語活動「自信あり!リスト」の結果分析

#### ア 「自信あり!リスト（5年生用）」について

全 18 項目のうち、13 項目に対して 70%以上の児童が「自信がある」と回答しており、概ね良好な結果である。「項目③:表情やジェスチャーをつけて、感情や様子を伝える」、「項目⑬:欲しいものについて、ていねいな言い方でたずねたり、答えたりする」、「項目⑱:時間割についてたずねたり、答えたりする」等は、児童の自信度が比較的低い。

項目③については、高学年になると自分の感情を素直に表現したり、人前でジェスチャーをすることに恥ずかしさを感じたりすることなどが影響していると思われる。また、感情や様子を表す表現 (hungry, happy, sleepy, fine, tired, sad…) の数が多いことも自信度の低さに無関係ではなかろう。項目⑬については、like という動詞を使った ‘Do you like…?’ という表現に慣れ親しんできたところに、同じ like を含む ‘What would you like?’ という丁寧な表現を学習することになり、子供たちに音声上や意味上の混乱が生じている可能性がある。項目⑱は、調査を行った学校の児童たちだけではなく、多くの小学校で自信度が低い項目のようである。「教科名」や「曜日」という難しい単語を多く使いこなすことに加えて、今までに慣れ親しんできた動詞 like ではなく study を使うことが、小学生たちに難しいことは容易に想像できる。中学校 1 年生でも、英語が苦手な生徒たちには自信が持ちにくい学習内容であろう。この項目には、教材等を工夫しながらスパイラルに指導するなど、教師の配慮が必要である。

#### イ 「自信あり!リスト（6年生用）」について

全 12 項目のうち、70%以上の児童が「自信あり」と回答している項目は 4 つである。5 年生に比べて、6 年生になると学習内容も少し難しくなり、週 1 時間という時数の中では、十分に英語に慣れ親しんでいくのは容易ではない可能性がある。「項目③:自分の誕生日を言う」、「項目⑧:行きたい国についてたずねたり、行ったりする」、「項目⑨:目的地への行き方をたずねたり、言ったりする」、「項目⑫:一日の生活の時刻についてたずねたり、言ったりする」は、児童の自信度が低い。項目③については、「月の名前」と序数を表す単語の難しさが大きく影響していると思われる。項目⑨の学習では、‘Go straight.’ ‘Turn right.’ ‘Turn left.’ のような道を案内する表現の使い分けに加え、多くの場所を表す英語 (park, bookstore, supermarket, hospital, fire station…) が必要となり、児童の学習の負担となっているのではなかろうか。項目⑫では、一日の生活を表すために多くの動作を表す英語表現 (get up / go to school / go to bed…) を使いつつ、さらに数字を使って時刻を表さなければならない。同じ内容を中学校 1 年でも扱うが、その定着は容易ではない。5 年生の項目⑱と同様に、配慮を要する項目と考えられる。

「慣れ親しまなければならない表現が多い」項目 (例.5 年生の項目③や 6 年生の項目⑧) や「2 つ以上の情報を組み合わせて表現していく」項目 (例.6 年生の項目③:「月の名前+序数」や 6 年生の項目⑫:「動作表現+時刻」) は、調査結果から児童の自信度が低い。小学校の教師は、このような項目の学習上の困難さを理解し、教材の工夫や指導の改善を行うことが望まれる。また、

中学校の教師も、これらの項目に接続する学習内容を扱うときには、生徒の実態をしっかりと踏まえ、意図的に指導していくことが望ましいであろう。

## ② 中学英語「Can-do リスト」の結果分析

70%以上の生徒たちが「できる」と判断した項目数は7つ（「聞く」2つ、「話す」2つ、「その他」3つ）である。7つの項目の中に「読む」、「書く」は含まれていない。音声を中心とする「聞く」、「話す」は、小学校外国語活動で慣れ親しむ活動が行われている。また、言語習得は、第一言語であっても、ある言語を十分に聞いたのちに、少しずつ発話が見られ、そのあとで読むことや書くことへと広がっていく。このような過程を考えてみても、この結果は納得できるものである。

このリストでは、言語材料を理解するのみでなく、それらを活用して何ができるかという項目が設定されている。例えば、「書く」の項目4は、「絵はがきやカード、Eメールなどで簡単なメッセージを書くことができる」である。実際の授業でこのような学習の機会がなければ、やればできる英語力を持った生徒たちであっても、自信を持って「○」をつけることはできない。中学校では、コミュニケーション能力の育成の観点からも、日常生活で英語を使う場面を想定した課題をもっと扱っていく必要があるだろう。「2年生の教科書をスラスラ読める」、「3年生の教科書を自分で読める」という音読に関する項目も、生徒の自己評価はかなり低い。もしかしたら、「スラスラ音読」や「自分で音読」という観点から、生徒たちが自分を過度に厳しく評価しているのかもしれない。このような自己評価には限界があり、生徒の実態を正確に把握するためには、パフォーマンステストを実施したり、生徒に直接聞き取り調査を試みたりするなど、一歩踏み込んだ調査が必要である。しかし、普段の音読の指導が、区切ってゆっくり読む教師のあとに続いてリピートする練習に終始しているのであれば、スラスラと音読したり、自分で音読できたりする力はなかなか身に付かない。「強勢やイントネーション等の英語の特徴をとらえて、一文ごとに音読する練習をしているか」、「自分ひとりで音読する機会を与えているか」など、指導方法の点検と合わせて、一歩踏み込んだ調査を行っていくことが大切である。

## 調査研究 [外国語科] (小学校外国語活動)

## 活動事例 「バースディハント」

## 1 教材作成の基本方針

- (ア) 自信度の低い言語材料 (学習内容) に、帯活動で繰り返し触れさせる。  
→ 小学校外国語活動「自信あり!リスト」の自信度を上げる。
- (イ) 全員が参加できる「聞くこと」の活動とする。  
→ 小学校段階では良質の英語をたくさん聞かせることが大切。
- (ウ) 英語と意味 (メッセージ、伝達内容) が一致するように配慮する。  
→ 意味を伴わない形式的な指導を避ける。

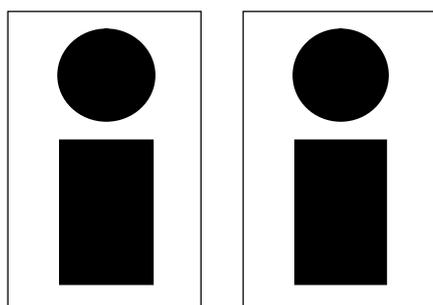
## 2 小学校外国語活動「自信あり!リスト (6年生)」との関連

自己紹介・インタビュー：自分の誕生日を言う (自信度 59%)

## 3 活動名「バースディハント」

(ア) 準備するもの

- (a) 「ハントカード」「男性用 (M1&M2) 各 1 枚 + 女性用 (F1&F2) 各 1 枚」
- (b) 写真 (1 回の活動につき 3 枚)
- (c) 読み上げ用の自己紹介原稿の例文 \* 必要に応じて準備

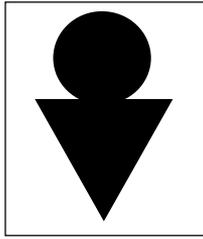


男性用 (ブルー) 女性用 (イエロー)

(イ) 活動の形態 2 人 1 組 (ペア)

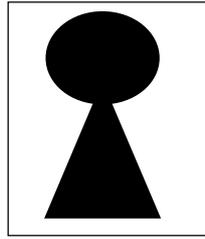
(ウ) 手順

①教師が、簡単な英語を使って3名の人物とその誕生日を紹介する。



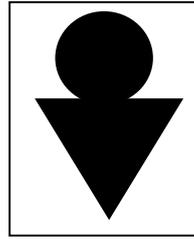
本田圭祐

6月13日



大島優子

10月17日



鈴木イチロー

10月22日

★黒板に写真やイラストを貼る

名前と誕生日は日本語で板書する。

②ペアの間の机の上に「ハントカード」(3枚)を置く。

\*この場合は「M1 / M2 / F1」となる。

③先生の読み上げる自己紹介を聞いて、その人物の誕生日が正しければ、ハントカードを取れる。

(読み上げ例)

Hello.

My name is Yuko.

My birthday is November 17.

Hi.

I'm Yuko.

My birthday is October 7.

Hello.

I'm Yuko.

My birthday is September 17.

Hi.

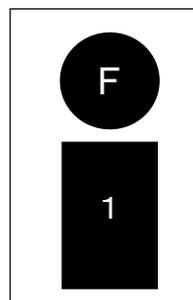
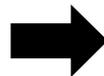
My name is Keisuke.

My birthday is June 1.

Hello.

I'm Yuko.

My birthday is October 17.



女性用カード(F1)を取る!

◎続けて自己紹介を読み上げ、残りの2枚のカードを取らせたところで終了。

★板書の誕生日は、必ず日本語で書く。

「10月17日 → October 17」を結び付けさせる

★歌手、俳優、お笑い芸人、スポーツ選手、アニメのキャラクター、学校の先生、クラスメートなど、様々な人々を教材として帯活動を展開する。

★クラスにいる児童の誕生日と同じ誕生日の人物を取り上げ、その子に誕生日を言わせたり、6月の誕生日の人物を扱ったときには、6月生まれの児童に自分の誕生日を言わせたりするなど、表現させる機会を意図的に組み込む。

★「いろいろな人たちの誕生日がわかって楽しいなあ」と児童が感じるような人物を教材化していく。

★「手は頭（の上におく）」をルールとして徹底する。

★「お手つき」は1回休み。

★2回目以降は、前の時間に扱った3人の人物とその誕生日を英語で確認する。

★ハントカードの得点の設定例

M1…1点	F1…1点	}	→ 3枚目まで勝ち負けが決まらないので望ましい
M2…2点	F2…2点		

★英文は、3人に関する自己紹介として読み上げていく。

### 3 教材を活用した学習活動により期待できる効果

(ア) 帯活動で誕生日に関する表現をくり返し聞かせることで、誕生日の表現に関する自信度が上がる。

→ 「小学校外国語活動自信あり!リスト：自分の誕生日を言う」の自信度が上がる。

(イ) 将来的に使える自己紹介に関する表現の定着が図れる。

### 4 その他

(ア) 「適切な活動」で、月の名前とそれを表す英単語の定着を図る。

(イ) 学級の児童に「自己紹介を聞いて本人を探せ!」で取り上げてほしい人物を募集したり、イラストを描いてもらったりしてもよい。

(ウ) ALTの協力を得て、ALTの家族やその友人を取り上げてよい。

(エ) 原則として、9月から10月の8回の外国語活動の授業で行う。

→ 1回の授業で3人×8回=24人分の教材を作る。

(オ) 一定の期間にわたって帯活動を行ったあとで、「自分の誕生日を言う」の項目の自信度を評価する。

## 活動の流れ「バースディハント」

- ★ 1月から12月までの英語での言い方を確認する。
- ★ 3人の人物を、写真(絵)を使って英語で紹介する。
- ★ 黒板に3人の写真を貼り、それぞれの名前と誕生日を板書する。

★黒板に写真やイラストを貼る

名前と誕生日は日本語で板書する。

ドラえもん 9月3日

渡辺麻友 10月17日

野原しんのすけ 5月5日

Now, let's enjoy 'Birthday Hunt'.  
Listen to me carefully.

Hello.  
My name is Doraemon.  
My birthday is October 3<sup>rd</sup>.

Hi.  
My name is Shinnouske Nohara.  
My birthday is May 5<sup>th</sup>.



M1カードを取る

Hi.  
I am Mayu Watanabe.  
My birthday is September 3<sup>rd</sup>.

Hello.  
I am Doraemon.  
My birthday is August 13<sup>th</sup>.

Good morning ( afternoon )!  
My name is Mayu Watanabe.  
My birthday is March 26<sup>th</sup>.



F 1 カードを取る

Hello, everyone.  
I am Doraemon.  
My birthday is January 1<sup>st</sup>.

Hi.  
My name is Doraemon.  
My birthday is September 17<sup>th</sup>.

Good morning ( afternoon )!  
I am Draemon.  
My birthday is September 3<sup>rd</sup>.



M 2 カードを取る

★ 2回目以降は、前の時間に扱った3人の人物の名前と誕生日を、下記のように確認する。

(前回の人物の名前と誕生日の確認の例)

T: Look at this picture.

Who is this?

S: ドラえもん!

T: Yes. He is Doraemon.

T: When is his birthday?

His birthday is September 3<sup>rd</sup>.

T: Look at this picture.

Who is this?

S: 渡辺麻友 (まゆゆ) !

T: Yes. She is Mayu.

T: When is her birthday?

Her birthday is March 26<sup>th</sup>.

T: Look at this picture.

Who is this?

S: しんちゃん!

T: Yes. He is Shinnnosuke Nohara.

T: When is his birthday?

His birthday is May 5<sup>th</sup>.

(参考資料)「教材として扱う人物等一覧」

回	人 物 ( 誕生日 )
1	ドラえもん(9/3) 渡辺麻友(3/26) 野原しんのすけ(5/5)
2	イモトアヤコ(1/12) 岡村隆史(7/3) 鈴木イチロー(10/22)
3	アントニオ猪木(2/20) さくらももこ(5/8) 西郷隆盛(12/7)
4	フランシスコ・ザビエル(4/7) ダルビッシュ有(8/16) 石川遼(9/17)
5	本田圭介(6/12) 大島優子(10/17) 徳川家康(12/26)
6	フグ田タラオ(3/18) 板野友美(7/3) 長友佑都(9/12)
7	春日俊彰(2/9) コバトン(5/31) 田中将大(11/1)
8	松井秀喜(6/12) Mr. マリック(6/12)



埼玉県のマスコット コバトン

The zookeepers did not want to kill John, Tonky, and Wanly.  
But they had to follow the orders of the Army. So they stopped giving food and water to the elephants and they finally died.  
What do you think of this story?

I've been to the Ueno Zoo many times, but I didn't know this sad story. I'll go to the monument at the zoo and pray for them.



I feel sorry for the elephants. I think John, Tonky, Wanly wanted to live longer and show their tricks to visitors at the zoo.

I think all the people and animals want to live in peace.  
We must not forget the tragedy of war.



What do you think of this story?

Four horizontal dotted lines for writing a response.

# PROGRAM 5 Sushi-Go-Around in the World



埼玉県のマスコット コバトン

Japanese restaurants are increasing in number in the U.S.  
Japanese food is becoming more popular around the world.  
What do you think of this story?

I often go to Kaiten-zushi with my family. I think it's very good and reasonable. I want to go to sushi train restrants in Australia.



In Japan, we can enjoy many kinds of food, such as Chinese food and French one. I hope many people in foreign countries will enjoy Japanese food.

I like Japanese food the best. There are a lot of Japanese restaurants all over the world, so I can eat Japanese food when I am traveling in foreign countries.



How about you?

Four horizontal dotted lines for writing a response.

Class      —      No.      Name

**PROGRAM 6** Let's Talk about Things Japanese.



埼玉県のマスコット コバトン

Mike got interested in Choju-giga, or “Cartoons of Birds and Animals.” , and he read about them on the Internet. Are you interested in things Japanese?

Japanese manga and anime are very popular in some foreign countries. I like them very much. I like drawing pictures too.



I'm interested in Japanese kimonos. My mother is a dressing teacher of kimonos. When I was an elementary school student, she taught me how to put on a kimono.



I like origami very much. It is a traditional Japanese art, and in particular the crane is widely known as the masterpiece of origami.

I can make a lot of animals only by folding square sheets of paper.



How about you?

Four horizontal dotted lines for writing a response.

Class      —      No.      Name

# PROGRAM 7 What is the Most Important Thing for You?



埼玉県のマスコット コバトン

I know this is a very hard and important question.  
Please answer in English.  
What is the most important thing for you?

The most important thing for me is my family. They are my treasure. They are everything to me.



My friends are the most important for me. They always help and encourage me. My friends make my life rich and interesting.

I think peace is the most important thing for me. We all want to live in peace. We must not make a war. We should help each other to make a peaceful world.



How about you?

Four horizontal dotted lines for writing an answer.

Class      —      No.      Name

# LESSON 4 The story of Sadako



埼玉県のマスコット コバトン

Emma was in shock when she saw the burnt lunch box and the pictures of crying people.

What do you think of this story?

I hate war. I want to think about peace more.

I will visit the Atomic Bomb Dome.



I think that atomic bombs are terrible. At least 130,000 people were killed by the bomb. I hope that all atomic bombs will disappear from the world.

I was impressed by the story of Sadako. I think that she was very strong. I want people around the world to know her story more.

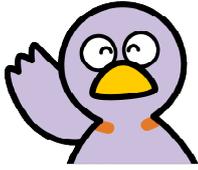


What do you think of this story?

Four horizontal dotted lines for writing answers.

Class      —      No.      Name

# LESSON 5 Houses and Lives



埼玉県のマスコット コバトン

Did you enjoy reading this story?  
What do you think of it?

My house has solar panels on the roof. I use solar energy that they make every day. I think that it is very ecological.



I think tatami rooms are better than flooring rooms. I feel quite comfortable there when I take a nap. I hope that many people in other countries use tatami and know its usefulness.

I am interested in houses and lives in the world. People arpund the world have their own way of life. Some are similar to ours and some are very dofferent. I want to visit China to see tulous someday.



What do you think of this story?

A large rectangular box containing four horizontal dotted lines for writing.

Class      —      No.      Name

# LET'S READ 1

## Learning from Nature



埼玉県のマスコット コバトン

Did you enjoy reading this story?  
What do you think of it?

Nature is wonderful. I am interested in getting ideas from nature. I want to learn about nature.



I am surprised to know that the streamline shape of Shinkansen comes from studies of fish in water. The Shinkansen can run fast with the design. I think that we can learn much more from nature.

I learned the wisdom of nature through this story. Nature can teach us a lot. The more we study it, the more it gives to us. I think that we should respect nature and protect it more and more.



How about you?

Four horizontal dotted lines for writing a response.

## 「丁寧な言い方でたずねたり、答えたりする」言い方に慣れ親しませる活動

熊谷市立別府小学校 深澤信也

### 1 「自信あり！リスト（5年生）」から

「自信あり！リスト（5年生）」の結果から、「インタビュー」の項目で「欲しい物について、ていねいな言い方でたずねたり、答えたりする。」のところが「自信ない」と答えた児童が70人中、36人おり、自信度は49%という低い結果であった。このことから、「What would you like?」、「I'd like ~.」の言い方に慣れ親しませ、自信度を上げる必要があると考え、本研究を実践する。

### 2 ねらい 「Lesson 9 ランチメニューを作ろう（4時間）」

#### ○本研究のねらい

「What would you like?」、「I'd like ~.」の言い方に慣れ親しませ、自信度を上げる。

#### ○本単元のねらい

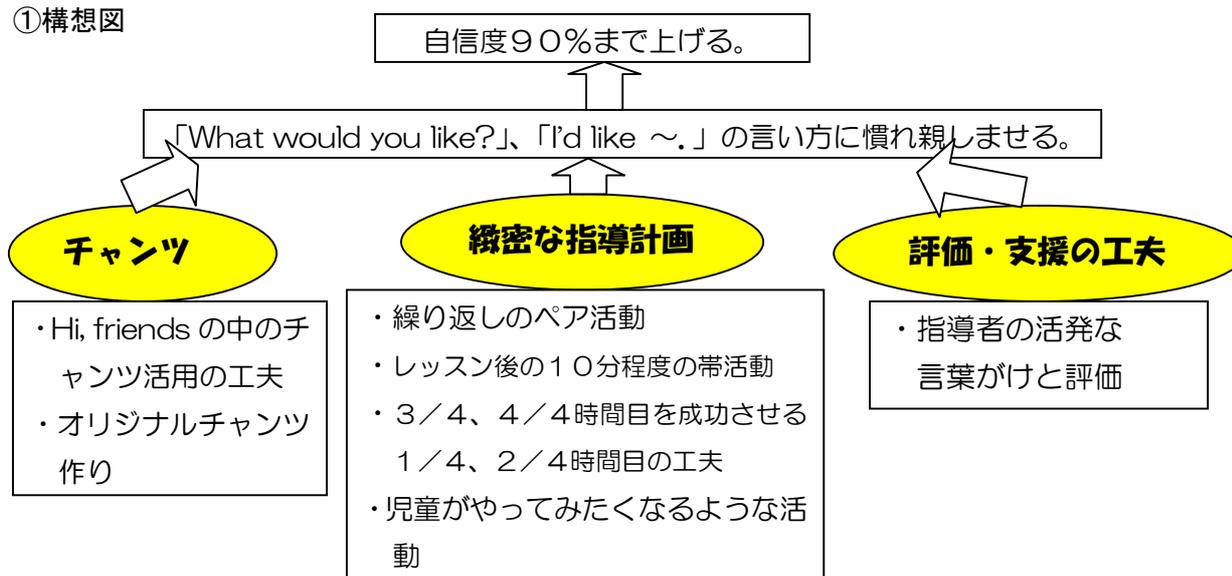
- ・欲しいものについて丁寧に積極的に尋ねたり、答えたりしようとする。(コ)
- ・欲しいものについての丁寧な表現の仕方や尋ね方に慣れ親しむ。(慣)
- ・世界の料理に興味をもち、欲しいものを尋ねたり言ったりする際、丁寧な表現があることに気づく。(気)

#### ○使用語彙

hamburger, salad などの食べ物、What would you like?, I'd like ~、anything else?, yummy

### 3 具体的な内容や方策

#### ①構想図



#### ② 仮説

チャンツを工夫するなどの緻密な指導計画を立てて実践し、さらに評価・支援を工夫すれば、児童は「What would you like?」、「I'd like ~.」の言い方に慣れ親しみ、自信度が上がるであろう。

#### ③ 手だて

##### ・チャンツの工夫

・Hi, friends 中のチャンツ活用の工夫

・オリジナルチャンツ作り

・緻密な指導計画

3 / 4、4 / 4時間目を成功させる1 / 4、2 / 4時間目の工夫

難易度を上げながら繰り返すペア活動

児童がやってみたくなるような活動

・評価・支援の工夫

指導者の活発な言葉かけと評価

④ 単元の指導計画

1 / 4時間目	2 / 4時間目	3 / 4時間目	4 / 4時間目
どこの料理、給食かを考えよう。	食べ物と言いの確認	食べ物と言いの確認	既習表現の確認
料理を注文しているところを見てみよう。	Let's chant !	Let's original chant !	Let's original chant !
食べ物カルタ 「What would you like?」、「I'd like ~.」を聞かせながら行う。	おはじきゲーム (ペア) 5つのおはじきを使ったペア活動	サイコロゲーム (ペア) 出た目の数だけ食べ物を注文し、相手のカードを全て取った方が勝ち	Let's make special lunch! 相手の好みそうなスペシャルランチを考える。
Let's chant !	陣取りゲーム	ランチを注文しよう	スペシャルランチを紹介しよう

4 仮説に向けた手立ての実践

(1) チャンツの工夫

既成のチャンツを1 / 4、2 / 4時間目に行い、児童のアイデアを取り入れたチャンツを3 / 4、4 / 4時間目に行うようにした。

例                   ♪『Let's Chant.』♪ (タンブリンなどの楽器でリズムをとりながら)  
Aグループ: What would you like?  
Bグループ:I'd like hamburger and juice. (hamburger and juice はBグループが考えたところ)  
Aグループ:Here you are.  
Bグループ:Thank you .

(2) 既習表現の確認の工夫

食べ物の言い方を確認する時は、児童が関心をもつようにその食べ物の写真や絵をわざと見えづらくして「What' s this?」と尋ねる。(プレゼンテーションソフトを使用)

例

「What' s this?」      「What' s this?」      「What' s this?」      「It' s a big hamburger!」

### (3) ペア活動の工夫

・おはじきゲーム（2/4時での Activity 1 で行った活動）



- ① 二人組を作り、向かい合って座る。
- ② 各児童はおはじきを5個持つ。（赤と青など、互いに色が異なるものがよい。）
- ③ 食べ物絵カードを1セット用意し、2人の間に並べる。
- ④ 児童は絵カードの中から、好きな絵を5つ選び、その上におはじきを置く。
- ⑤ 「What would you like? 」とHRTがALTに尋ねる。  
（言い方に慣れてきたら、児童がALTに尋ねる。）
- ⑥ 「I'd like ~ . 」と食べ物の単語をALTが答える。
- ⑦ ALTが発音した単語の絵の上に、自分のおはじきが置かれていたら、そのおはじきを取る。
- ⑧ おはじきが早くなくなった方が勝ち。

・サイコロゲーム（3/4時での Activity 1 で行った活動）



- ① 互いに児童用絵カードを机の上に並べる。
- ② ジャンケンをし、負けた方が勝った方に「What would you like? 」と尋ね、勝った方はサイコロを振る。サイコロの出た目の数だけ、相手のカードから食べ物を注文できる。  
〈例 3が出た場合→I'd like juice, pizza and parfait.〉
- ③ 早く相手のカードを全て取った方が勝ち。

### (4) 評価・支援の工夫

①めあての設定（がんばりポイント）

「ENGLISH」の7つの項目のうち、1時間に3つの項目を教師が選び、その3つの中から1つだけ、児童一人ひとりがめあて（これを授業では「がんばりポイント」と言う）を選び、設定した。設定した後は下の写真のように、名札の左上に自分の選んだめあてを掲示しておいた。

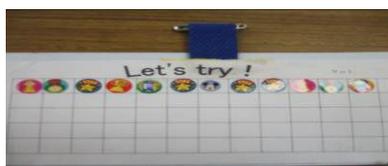
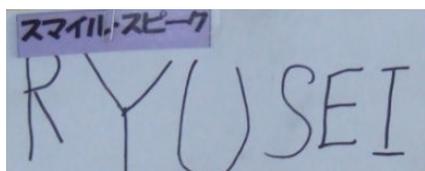
## Enjoy English!!

## 英語活動のやくそく これができたら ポイントゲット

<b>E</b>	Eye-contact アイコンタクト	・目を合わせて話す。
<b>n</b>	notice 気づく	・日本と外国のちがいに気づく。
<b>g</b>	gesture ジェスチャー	・ジェスチャーを使って伝えたいことを伝える。
<b>l</b>	listen 聞く	・友達や先生の話を一歩けんめい聞く。
<b>i</b>	interest 興味	・自分から進んで手をあげる。
<b>S</b>	smile & speak 笑顔で話す	・笑顔で楽しく活動する。 ・はずかしがらず、先生や友達と何回も話す。
<b>h</b>	help 助ける	・友達をほめたり、はげましたりする。 ・友達と助け合って活動する。

<b>E Eye-Contact</b> アイポイント	<b>N Notice</b> 気づきポイント	<b>G Gesture</b> ジェスチャーポイント	<b>L Listen</b> リッスンポイント
<b>I Interest</b> 進んでポイント	<b>S Smile</b> スマイルポイント	<b>S Speak</b> スピークポイント	<b>H Help</b> ヘルプポイント

名札とその裏側



このめあてを設定した結果、児童に励ましの声かけがしやすくなった。

②ALT の活用と活発な言葉かけ

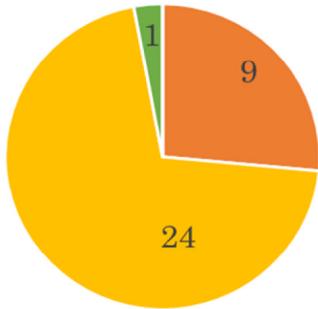


Nice try!  
Never mind

外国語活動中は、「はげまし合い、ほめ合い」を合い言葉にし、間違えてもよいという「失敗を恐れない雰囲気づくり」を心がけた。このことで、児童が積極的に発言したり、友達とかかわろうとする意欲を高めることができ、より「What would you like?」、「I'd like ~.」の言い方に慣れ親しむことができた。

5 仮説の検証 ～ 5年2組 34名へのアンケートから ～

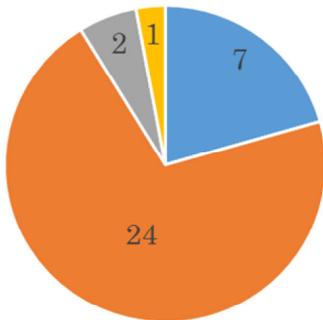
ほしい物について、ていねいな言い方でたずねたり、答えたりすることができる。



■ とても自信がある ■ 自信がある  
■ あまり自信がない ■ 自信がない

左のように「What would you like?」、「I'd like ~」の言い方に自信があると答えた児童が34人中33人であった。97%の児童が「自信がある」と答えた要因として、「What would you like?」、「I'd like ~」を1/4、2/4時間目で何度も聞かせたこと、4時間を通して、チャンツの難易度を上げていったこと、「What would you like?」、「I'd like ~」を使ったペアでの活動を工夫したことなどが挙げられる。評価・支援の工夫をしたことも功を奏したといえるだろう。課題としては、1名の児童が「自信がない」と答えているが、事前に実態を把握し、英語が苦手な児童に焦点を当てて励ましの声かけをするなどの配慮が必要であったことが挙げられる。

英語を使って、友達と簡単な会話ができる。



■ とても自信がある ■ 自信がある  
■ あまり自信がない ■ 自信がない

左のように91%の児童が「自信がある」と答えている。英語を使っての簡単なやりとりはこれまでも何度もやってきている。児童は今回の「What would you like?」、「I'd like ~」の会話を使った活動を通して更に自信を深めたと言える。しかし、「自信がない」と答えた児童が3名いることから、これからはこの3名の児童に焦点を当てて、授業を進めていく必要がある。この3名が意欲的に取り組めるよう、指導計画を改善していくことが求められる。

6 成果と課題

- チャンツ、指導計画、評価・支援を工夫した結果、児童が「What would you like?」、「I'd like ~」の言い方に慣れ親しむことができた。児童は今回の活動を通して、友達との英語でのやりとりをするに自信を深めることができた。
- チャンツを工夫すること、ペアでの活動、グループでの活動と活動に広がりを持たせることの重要性を示すことができた。
- △ 今回の活動では自信をもてたが、英語に自信をもてない児童が数名いることがわかった。今後はこれらの児童に焦点を当てて授業を進める必要がある。

学習活動	H R T	A L T	留意点 & アドバイス ◎ 評価 ☆ 仲間づくりイングリッシュ	教材
<p>・ あいさつをする。</p>	<p>H: Hello everyone. How are you, today? S: I'm fine thank you, and you? H: I'm fine. How 's the weather today? S: It's ~ and ~.</p>	<p>はじめのあいさつ A: Hello, class S: Hello, ○○先生. A: How are you? : what day is it today? : what is the date today? S: It's ~.</p>	<p>・ これから授業が始まることに、これを意識は元々よく挨拶を指導する。</p>	
<p>1 【慣れの内容を想起して友達のパフェを作ろう】 （ペア活動）</p>	<p>○ 「フルーツパフェを作っちゃおう！」 ① 「What do you want?」「～, please.」のLesson6の学習内容から、HRTとALTがパフェ作りのデモンストラーションをする。 A: 「What do you want?」 H: 「Strawberry, please.」 A: 「OK, What do you want?」 H: 「Apple and ice cream, please.」 （同じ会話のやり取りを続け、パフェを完成させる。） A: 「OK, your parfait. Here you are.」 H: 「Thank you.」 ② ペアになり、事前に切り抜いておいた果物絵カードを机の上並べる。 ③ 互いの欲しい果物を聞いて、パフェグラスの絵に友達のパフェを作る。</p>	<p>○ 「What's this?」（これはなんですか） fruits (果物), sandwich (サンドウィッチ), miso soup (みそ汁), bread (パン) rice (白米), sausage (ソーセージ), orange juice (オレンジジュース), green tea (緑茶), yogurt (ヨーグルト), curry and rice (カレーライス) pizza (ピザ) (七°サ°), natto (納豆), sushi (寿司), hotdog (ホットドッグ), fried chicken (フライドチキン), french fries (フライドポテト), hamburger (ハンバーガー), omelet (オムレツ), spaghetti (スパゲッティ), salad (サラダ), parfait (パフェ), ice cream (アイスクリーム), cake (ケーキ) milk (牛乳), pudding (プリン)</p>	<p>・ G5-Lesson6で扱った「What do you want?」「～, please.」の表現を想起させるようにする。 ・ HRTとALTのデモンストラーションを理解できるようにする。 ・ ALTの絵の言葉を確認する。</p>	<p>果物絵カード HilFrie nds I ハ°フエ ケ°ラスト ーカ ーシ ー 絵</p>
<p>・ 新出単語の発音練習をする。</p>			<p>・ ALTの後に続いて言い方を発音とリズムに気を付けて発音を出すようにする。</p>	<p>教師用</p>

<p>2 【慣れの活動 2】 ・新出表現を知る。</p>	<p>○ 「何を言っているのでしょうか」(デモンストレーション) A : 「What would you like ?」 (何にいたしましたでしょうか?) H : 「I'd like orange juice .」 (オレンジジュースをお願いします。) A : 「OK, Here you are .」 H : 「Thank you .」</p>	<p>・ これのかまでの表現をよ何が違 うか。る。 ・ 「What do you want ?」 「~please.」の表現よりも 丁寧に気付くようにする。 ・ 「What would you like ?」「I'd like ~.」の表現を何度も表 現に慣れるようにする。</p>
<p>3 【Activity 1】 ・「食べ物カルタとり」 ゲームをする。 (ゲーム用カード) (食べ物活動)</p>	<p>○ 「食べ物カルタとり」ゲーム ① 1 グループ (3~4人程度) に巻末絵カード (グルー プ人数-1セット) 用意し、机あるいは床の上に並べ る。 ② 「What would you like ?」と HRT が ALT に尋ねる。 ③ 「I'd like ~.」と食べ物の単語を ALT が答える。 ④ ALT が発音する食べ物の絵カードを取る。 ⑤ グループの中で、一番カードを多く取った児童が勝ち。 ○ 「Let's Chant !」</p>	<p>・ 食べ物の カード</p>
<p>4 Let's chant ! (ゆっくりに → ふっう) を を行う。</p>	<p>○ 「What would you like ?」と HRT が ALT に尋ねる。 What would you like? I'd like milk and pizza . I'm hungry. What would you like? I'd like cake and pudding. I'm hungry.</p>	<p>・ G5-Lesson6 で扱った 「What do you want ?」「~, please.」 の表現と違い、丁寧に尋 ねる表現であることと意 識させる。 ・ 児童の観点を明確にし、 児童の自己評価をさせる。</p>
<p>5 今日 の活 動 の 振 り 返 り を す る 。 ( カ ー ド に 記 入 を 振 り 返 る 。 ( 約 3 分 ) ) ・ あいさつ を す る 。</p>	<p>・ 新出単語や丁寧な言い方で、表現を知り、振り返りカードに記入したところ とよやうに伝える。 H : That's all for today. S : Thank you for your lesson. H : See you next time. S : See you.</p>	<p>・ 児童の観点を明確にし、 児童の自己評価をさせる。 ・ 児童の観点を明確にし、 児童の自己評価をさせる。</p>
<p>● 備考 ● 準備するもの</p>	<p>① 「Hi!Friends 1」巻末にある果物絵カードを事前に切り抜き、児童一人一人が各自用意する。 ② 「Hi!Friends 1」(P 36) ③ 「Let's Chant.」: 「Hi!Friends 1」音声 CD Disc2 No.69 または付属 DVD</p>	<p>☆ 一人一人の顔を見ようとして 挨拶をするようにする。</p>

学習活動	HRT	ALT	留意点 & アドバイス ◎ 評価 ☆ 仲間づくりイングリッシュ	教材
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつをする。</li> </ul>	<p>はじめのあいさつ</p> <p>H: Hello everyone. How are you, today? S: I'm fine thank you, and you? H: I'm fine. How's the weather today? S: It's ~ and ~.</p>	<p>A: Hello, class. S: Hello, ○○先生. A: How are you? : what day is it today? : what is the date today? S: It's ~.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これから授業が始まるに、これを意識して元気に挨拶を指導する。</li> </ul>	
<p>1 【慣れの活動1】 ・ 絵カードを見て発音練習をする。</p> <p>・ 表現練習をする。</p>	<p>○ 「What's this?」(これはなんですか) fruits (果物), sandwich (サンドウィッチ), miso soup (みそ汁), bread (パン) rice (白米), sausage (ソーセージ), orange juice (オレンジジュース), green tea (緑茶), yogurt (ヨーグルト), curry and rice (カレーライス), pizza (ピザ), (ヒマ), natto (納豆), sushi (寿司), hotdog (ホットドッグ), fried chicken (フライドチキン), french fries (フライドポテト), hamburger (ハンバーガー), omelet (オムレツ), spaghetti (スパゲッティ), salad (サラダ), parfait (パフェ), ice cream (アイスクリーム), cake (ケーキ), milk (牛乳), pudding (プリン)</p> <p>What would you like? (何にいたしましよろうか?) I'd like orange juice. (オレンジジュースをお願いします。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ALTの後練習する。</li> <li>・ 発音とリズムを付けて練習する。</li> <li>・ 発音練習を掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ALTの後練習する。</li> <li>・ 発音とリズムを付けて練習する。</li> <li>・ 発音練習を掛ける。</li> </ul>	<p>教師用 絵カード</p>
<p>【慣れの活動2】 ・ 「Let's Chant.」(ふつう)をする。</p>	<p>○ 「Let's Chant!」 What would you like? I'd like milk and pizza. I'm hungry. What would you like? I'd like cake and pudding. I'm hungry.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音声に合わせてリズムよく楽しくやる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音声に合わせてリズムよく楽しくやる。</li> </ul>	<p>CD Disc2 No.69</p>
<p>2 【Activity 1】 ・ 「おはじぎゲーム」をする。(ペア活動)</p>	<p>○ 「おはじぎゲーム」かき作り、おはじぎゲームの準備をする。 ① おはじぎゲームの準備をする。 ② おはじぎゲームの準備をする。 ③ おはじぎゲームの準備をする。 ④ おはじぎゲームの準備をする。 ⑤ おはじぎゲームの準備をする。</p>	<p>「おはじぎゲーム」かき作り、おはじぎゲームの準備をする。 ① おはじぎゲームの準備をする。 ② おはじぎゲームの準備をする。 ③ おはじぎゲームの準備をする。 ④ おはじぎゲームの準備をする。 ⑤ おはじぎゲームの準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担任と児童の対話を促す。</li> <li>・ 児童の発音やリズムを指導する。</li> <li>☆ 児童の発音やリズムを指導する。</li> </ul>	<p>絵カード おはじぎ</p>





<p>③ ジョッキーの勝ち、負けた方が相手に「What would you like?」 ④ ③が出た場合「I'd like juice, sandwich and parfait.」 ＜再早＞</p>	<p>ににする。 ・「I'd like ~ and ~.」の表す 現に慣れさせよるようにする。</p>	<p>児童用絵カード トレ紙 Hi!Friends P38,P39 のメニュー表</p>
<p>③ ジョッキーの勝ち、負けた方が相手に「What would you like?」 ④ ③が出た場合「I'd like juice, sandwich and parfait.」 ＜再早＞</p>	<p>☆ 言いまわしを友達と共有する。 ★ 「Here you are.」「Thank you.」に 言えよう。 ◎ 丁寧な言葉遣いをする。 ＜丁寧な言葉遣いをする。＞</p>	<p>児童用絵カード トレ紙 Hi!Friends P38,P39 のメニュー表</p>
<p>3 【Activity 2】 「ラUNCH」をする。 (ペア活動)</p>	<p>☆ 言いまわしを友達と共有する。 ★ 「Here you are.」「Thank you.」に 言えよう。 ◎ 丁寧な言葉遣いをする。 ＜丁寧な言葉遣いをする。＞</p>	<p>児童用絵カード トレ紙 Hi!Friends P38,P39 のメニュー表</p>
<p>4 今日返りを返す。 ・振りかえりをする。(約3分) ・あいさつをする。</p>	<p>☆ 一人ひとりの顔をよめる。 ALTの挨拶をする。 一人ひとりの顔をよめる。 ALTの挨拶をする。</p>	<p>児童用絵カード トレ紙 Hi!Friends P38,P39 のメニュー表</p>
<p>● 備考 ● 準備するもの</p>	<p>① 「Hi!Friends 1」音声 CD Disc2 No.69 ② 黒板掲示用絵カード ③ サイコロ (ペア数) ④ 児童用食べ物絵カード (前時に使った物) ⑤ A4 サイイズ画用紙 (児童数分用意) 【Activity 2】 ⑥ 「Hi!Friends 1」P38,P39のメニュー表</p>	<p>児童用絵カード トレ紙 Hi!Friends P38,P39 のメニュー表</p>

G5-Lesson9(4) ランチ・メニューを作ろう

学習日： 月 日

回

35

学習活動	H R T	A L T	意点 & アドバイス ◎ 留評価 ☆ 仲間づくりイリッシュ 教材 CD Disc2 No.69
・あいさつをする。  1 【慣れの活動1】 ・既習単語の確認をする。	H: Hello everyone. How are you, today? S: I'm fine thank you, and you? H: I'm fine. How 's the weather today? S: It's ~ and ~.  はじめのあいさつ A: Hello, class S: Hello, ○○先生. A: How are you? : what day is it today? : what is the date today? S: It's ~.	A L T	・これから授業が始まるに、授業で元気に挨拶をしよう。 ・これを意図して指導する。  ・ALTの後を練習する。 ・ALTと発音練習を続ける。 ・ALTと発音練習を続ける。
1 【慣れの活動2】 ・既習表現の確認をする。	○ 「What's this?」(これはなんですか) fruits (果物), sandwich (サンドウィッチ), miso soup (みそ汁), bread (パン) rice (白米), sausage (ソーセージ), orange juice (オレンジジュース), green tea (緑茶), yogurt (ヨーグルト), curry and rice (カレーライス) pizza (ピザ), natto (納豆), sushi (寿司), hotdog (ホットドッグ), fried chicken (フライドチキン), french fries (フライドポテト), hamburger (ハンバーガー), omelet (オムレツ), spaghetti (スパゲッティ), salad (サラダ), parfait (パフェ), ice cream (アイスクリーム), cake (ケーキ) milk (牛乳), pudding (プリン)  ○ 「What would you like?」(何にいただきますか?) A: 「What would you like?」 B: 「I'd like sandwich, fried chicken and parfait.」 A: 「OK, sandwich, fried chicken and parfait?」 B: 「Yes, please.」 A: 「Here you are.」 B: 「Thank you.」	・ALTの後を練習する。 ・ALTと発音練習を続ける。 ・ALTと発音練習を続ける。  ・HRTとALT、児童とALTなど表現の確認をする。 ・既習表現の程度に合わせる。	教師用 絵カード  教師用 絵カード
2 【Activity 1】 ・オリジナルランチ作りをする。(ペア活動)	○ 「オリジナルランチを作ろう」 A: 「Hello.」 B: 「Hello. This is a menu. What would you like?」 A: 「メニューを見ながら」 「I'd like sandwich, fried chicken and fruits.」 B: 「OK, Sandwich, fried chicken and fruits?」 A: 「Yes, please.」	・HRTとALTのやり取りの際、児童の意図を注し、内容を内面する。 ・ALTが取り上げる場面を高く評価し、高めてやる気を促す。 ・ALTと児童のやり取りの際、児童の意図を注し、内容を内面する。 ・ALTが取り上げる場面を高く評価し、高めてやる気を促す。	児童用 絵カード メニュー表 紙トレ



## 【高等学校外国語 資料】

# Language Teaching Assessment

Example Can-do List for high school 1st grade

## Content

A1 - A4

**Language Teaching Assessment**  
Example Can-do List for high school 1st grade

B1 - B2

**Language Teaching Assessment**  
・・・High School

C1 - C2

**Language Teaching Assessment**  
・・・High School

## Written & issued by

Nakazawa, Chichibu High School  
Hidaka, Omiya Koryo High School  
Yuasa, Educ.Ctr

### 【高等学校外国語】英文概要

#### 1 はじめに（調査研究の視点）

教育改革が進められて久しい。教育レベルを横断し、系統的に連携するため努力してきたが、未だに学校間の溝は大きい。そのため、全就学期間を通した学習機会の改善が難しい。学校間の溝を埋める方策を考えることが不可欠である。

#### 6 おわりに（研究のまとめ）

学習機会の改善には、多大な努力が必要であるが、学校間の連携・協力があれば、今ある溝を埋めるための方策を見出すことができる。

## Language Teaching Assessment

Example Can-do List for high school 1st grade

### Instruction

#### Purpose

This teaching assessment is used for lesson improvement  
This teaching assessment may also be used for Ss' self assessment

#### Directions

Assessment should be made based on evaluation data / record  
Examples of the evaluation data :

Exam results  
Performance tests  
Ss' participation in activities

The priority of each category may be changed  
according to each school's requirements  
Each standard can be changed / made anew  
in accordance with school's requirements

Foreign Language Dept. / Upper Secondary School  
Saitama Pref.Educ.Ctr. 2013-2014

# Language Teaching Assessment

## Language Teaching Assessment

Example Can-do list for high school 1st grade

Can do easily	4
Can do under normal circumstances	3
Can do with difficulty	2
Can't do	1

Area	Criteria	Standard - Example	Evaluation method	Level	Self assessment	
Ability to understand foreign languages	Listening	Can understand instructions from JTEs and ALTs	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can follow instructions spoken <u>*at the rate of 140 wpm</u></li> <li>Can find keywords from the ALT's speech</li> </ul>	S's response in class	T's teaching assessment	S's self assessment
		Can comprehend English used in daily life	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can understand announcements at public institutions such as a train station</li> </ul>	S's response in class		
		Can understand the context of spoken English	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can understand the context of long spoken sentences, taking notes if necessary</li> </ul>	S's willingness to participate / Enthusiasm		
		Can be proactive in listening to others with interest in the target culture	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can realize the importance of prior knowledge when listening</li> <li>Can be enthusiastic about listening to others</li> </ul>	S's behavior in class		
		Can catch the outline and understand the points of the content with keywords	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can convey to others the content of what is listened to</li> <li>Can grasp keywords listening to material consisting of <u>*200 words</u></li> </ul>	Listening test		
Ability to understand a foreign language	Reading	Can understand segments and read aloud properly	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can read aloud <u>*at the rate of 80 wpm</u></li> <li>Can use pauses correctly while reading</li> </ul>	Reading test : Recitation		
		Can use the media to acquire information and comprehend the contents	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can consult a dictionary or a reference book to clear up questions</li> <li>Can clear up the questions in class and acquire additional information by consulting a dictionary or reference book</li> </ul>	S's willingness to participate / Enthusiasm		
		Can understand the logical development of writing	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can translate in pairs a given paragraph of writing into Japanese</li> <li>Can find a keyword / key sentence in each paragraph of writing</li> </ul>	Reading test		
		Can guess the meaning of words in context	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can guess possible meanings of unknown words from the context</li> </ul>	S's willingness to participate / Enthusiasm		
		Can translate English sentences into Japanese appropriately	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can translate English sentences into correct Japanese</li> </ul>	Reading test		

# Language Teaching Assessment

## Language Teaching Assessment

Example Can-do list for high school 1st grade

Can do easily	4
Can do under normal circumstances	3
Can do with difficulty	2
Can't do	1

Area	Criteria	Standard - Example	Evaluation method	Level	Self assessment
Expressive capacity in a foreign language <b>Speaking</b>	Can convey intention or information while conscious of pronunciation	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can remark on the content of writings in 2 or 3 sentences</li> <li>Can choose a particularly meaningful sentence from target content and explain their choice</li> <li>Can summarize a given paragraph into 1 or 2 sentences</li> </ul>	Speaking test		
	Can be aware of and proactive in communication with others	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can speak <u>at the rate of 140 wpm</u> in a loud voice</li> <li>Can be enthusiastic about communication in speech</li> <li>Can convey intention with body language when needed</li> </ul>	S's willingness to participate / Enthusiasm		
	Can give an introduction of a certain subject in front of others	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can speak for one minute about a given topic such as a plan for the weekend</li> </ul>	Speaking test		
	Can use discourse markers properly to develop speech	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can speak using discourse markers</li> <li>Can clearly give an account of events in sequence using discourse markers such as 'first' and 'second'</li> <li>Can correctly express a causal connection of events using words such as 'because' or 'so'</li> </ul>	Speaking test : Declamation		
	Can ask for assistance when finding out the meaning of new words	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can ask an ALT a question in class</li> <li>Can ask a question in English using full sentences</li> <li>Can ask an instructor or classmates a question in English</li> </ul>	S's willingness to participate / Enthusiasm		
Expressive capacity in a foreign language <b>Writing</b>	Can write sentences grammatically and idiomatically	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can write sentences in accordance with grammar rules and usage</li> </ul>	Writing test		
	Can make the most of what is learned or experienced through lessons	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can write sentences using idiomatic expression learned in class</li> </ul>	Writing test		
	Can rewrite when instructed	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can possess sufficient knowledge of grammar and collocation rules to rewrite sentences when instructed</li> <li>Can write 2 or 3 different sentences of one meaning using inanimate subject or by transforming into active / passive voice</li> </ul>	S's willingness to participate Writing test		
	Can summarize written English appropriately	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can write persuasive sentences while considering paragraph structure in English</li> <li>Can grasp the logical composition to present briefly on the structure of written English</li> </ul>	Writing test		
	Can realize cultural differences and write understandable sentences in English	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can explain aspects of Japanese culture with regards to cultural differences</li> </ul>	Writing test		

# Strategies for language teaching

教科指導のストラテジーと留意点  
～"Language Teaching Assessment"の結果を踏まえて

高等学校外国語教科部会

- リスニングに重点を
- 「ちゃんと聞いてしゃべれるようになるように」してやれるよう
- 単語が聞き取れないことの原因を意識化する
- ▽ その単語をそもそも知らない・・・まずはこの対策が必要！ただし、「音」を含めた対策を！
- ▽ 音の変化に対応できない
- ▽ 早さについていけない
- ▽ 文章の長さ（量）についていけない  
・・・長すぎて気を失う（集中力が続かない）

以上を意識した上で対応していく

生きた単語力を身に付けよう

- 英作文もクイックレスポンスで  
・・・これは、リスニングで扱った英文を使った復習を兼ねた練習として扱う

- 「英語力とはすなわち単語力といっても過言ではない。ただし、生きた単語力でないと意味がない」
- クイック（即座）に言えるようにしよう（日本語から英語、英語から日本語のどちらの場合も）

教科書本文の読解が終了したら、以下の要領でまとまった量の音読練習を行う

- 速（はや）読み練習  
1文からはじめて数文さらにワンパラグラフさらにページ単位で、またまった英文の意味を取りながら音読する。「意味を取りながら」がポイント、要するに同時通訳（simultaneous translation）をするような感覚で。音を追って、同時に理解するトレーニングをしないと、全然、意味がない（聞き取れたけど理解できないでは意味がない）
- 復習用のペアワークとして行う
  - まずは各自一人で
    - ・1回目・・・各自が自分のペースで速読
    - ・2回目・・・さらに早く速読
    - ・3回目・・・さらにペースを上げて速読
  - 続いてペアになって
  - 立って向き合っている
    - ・3回速読する、先に読み終わった方が相手のスクリプト（プリント/教科書）を取り上げて、相手をじっと見つめて「遅い！」と言ってあげましょう（ゲームとして楽しみながらやりましょう）

- ① 単語は音声を使って練習しクイックレスポンスできるように
- ② 正確な発音を身に付ける
- ③ 音声習得語彙を増やす（クイックレスポンスができるように）
- ④ 自分が聞き取れない理由を探りながら、リスニング力を上げる（単語を知らないのか、音の変化についていけないのか）

## Supplementary materials

### Element L7 New Word List

	Word	Part of speech	Meaning
1	biomimetics	noun	バイオミメティクス（生体模倣）
2	develop	verb	～を開発する、～を発展させる
3	technology	noun	科学技術
4	various	adjective	さまざまな
5	product	noun	製品

New Word List（使用教材"Element" Lesson 7から37単語）の抜粋

35	effective	adjective	効果的な
36	environment	noun	環境
37	hidden	adjective	隠れた（<hide (verb)）

- ・覚えようという意識は強く持たずに、繰り返しゲーム感覚で練習するよう取り組ませる。
- ・以上のように、①と②を毎回の授業の最初で行う（5分から10分程度）。5回を目安として、6回目をファイナルチェックとする。ファイナルチェックでは、教員が読み上げ、各生徒が自己チェックする。
- ・さらに様子を見てできそうであれば、「フレーズ」さらに「センテンス」へと進化させる（同じくクイックレスポンスで）。

・たとえば「instrument」という単語は最初の①に強勢があるんだよ。覚えておきなさいね」等と発音に関するアドバイスを（一通り）行って、①に続いて実際に声を出して発音させる。  
・続いてチェック用紙（①と②）を使って、ペアでチェックする。まずは①を使って、英単語を音読して訳がクイックで出てこない場合はチェック印（し）を入れていく。そして②の総数を用紙に記入する。次に裏面の②を使って「日→英」で即座に言えるかのチェックをする。

### Check Sheet ① ( English → Japanese )

Word No.	Part of speech	Check 1	Check 2	Check 3	Check 4	Check 5	Final check
1	noun						
2	verb						
3	noun						
4	adjective						
5	noun						

Check Sheet①（使用教材"Element" Lesson 7から37単語）の抜粋  
Lesson 7用のCheck Sheetには①と②がある

35	adjective						
36	noun						
37	verb						
Total							

1- No. Name:

Word List

初出L	初出P	単語	品詞	意味	英語での定義
1	8	port	名詞	港	a place where ships can be loaded and unloaded
1	8	trade	名詞	貿易 通商	the activity of buying, selling, or exchanging goods within a country or between countries
1	8	foreigner	名詞	外国人	someone who comes from a different country
1	8	difficulty	名詞	困難	if you have difficulty doing something, it is difficult for you to do
1	8	nobody	代名詞	だれも～ない	no one
1	8	realize	動詞	～だと気づく	to know and understand something, or suddenly begin to understand it
1	8	discover	動詞	～を発見する	to find out something that you did not know about before
1	8	surprising	形容詞	驚くべき	unusual or unexpected
1	8	however	副詞	しかしながら	used when you are adding a fact or piece of information that seems surprising, or seems very different from what you have just said
1	8	eager	形容詞	～したいと思う	very keen and excited about something you want to do

Word List (使用教材"Element" から抽出した398単語) の抜粋

FR3	135	lily	名詞	ユリ	(water ~) a plant that grows in water, with large white or pink flowers
FR3	136	warmly	副詞	温かく 心から	in a friendly way
FR3	136	collection	名詞	収集 コレクション	a set of similar things that are kept or brought together because they are attractive or interesting
FR3	136	contribute	動詞	貢献する	to give help, ideas, etc. to something that a lot of other people are also involved in
FR3	136	illustration	名詞	挿絵 イラスト	a picture in a book, article, etc., especially one that helps you to understand it
FR3	136	development	名詞	発達 発展	the process of gradually becoming bigger, better, stronger, or more advanced

Check Sheet ① ( English → Japanese )

Phrase No.	Check 1	Check 2	Check 3	Check 4	Check 5	Final Check
Date						
1	Phrase					
	Sentence					
2	Phrase					
	Sentence					
3	Phrase					
	Sentence					

Check Sheet ① (使用教材"Element" Lesson 7のphrases & sentences) の抜粋

10	Phrase					
	Sentence					
1	Sentence					
2	Sentence					
3	Sentence					

・授業で適宜(1回に1文から2文程度)、ディクテーション練習を行う。  
教科書本文のキーセンテンスを選んで行うのが良い。・・・ただし、単語を(ある程度)定着させてから行う、単語で負荷をかけない、あくまでリスニング力向上を図ることを目指す。  
・教科書本文等の音読トレーニングの際は、「発音のポイント・注意点」をできるだけ詳しく説明する。—この辺の指導力が大切。例えば、'Wow, what did you make for?'であれば、'those'のthの音、'for'のfはきちんと発音、'has been'ではスピードが速くなると「ビーン」が「ベン」になるなど。'in the hospital'ではnのあとスピードが速くなるとthの音が省略されることがある。'pray'が'play'にならないよう注意させるなど。  
・オーバーラッピング(CDに音重ねる練習)では大きな声を出す必要はない。大切なのは耳の方、自分の声がかすかに聞こえる程度の音を出せば良い。

Element L7 New Phrases and Example Sentences

	Phrases	Meaning	Sentences	Meaning
1	work out A / work A out (= solve A)	Aを解決する、苦労して解く	Students worked out all the problems by themselves.	生徒たちは自分自身で全ての問題を解いた。
2	look to A (= depend on A)	Aに期待する、当てにする	He looks to his sister to help him with his homework.	彼は、宿題を手伝ってもらうために、姉を当てにしている。
3	pull off A / pull A off	Aを脱ぐ、はずす	Pull the price tags off the goods.	品物から値札を外さない。
4	A is thought of (→ think of A)	Aを考えつく	Can you think of a good idea?	いい考えが思いつきますか。
5	help A do	Aが～するのを手伝う	Taking a bath will help you sleep well.	風呂に入ればよく眠れるでしょう。
6	be made of A	Aでできている	This paper is made of used newspapers.	この紙は古新聞からできている。
7	as a result	結果として	There was a car accident. As a result, the road was closed.	自動車事故があった。その結果、道路が閉鎖された。
8	in the same way	同様に	You can solve this problem in the same way.	この問題は同じように解けばいいのです。
9	little by little	少しずつ	He is learning how to cook little by little.	彼は料理の仕方を少しずつ学んでいる。
10	build up A / build A up	Aを築き上げる	Those students and teachers built up a good relationship.	その生徒たちと先生たちは良い関係を築いた。
		Target grammar	Sentences	Meaning
1	現在完了進行形		He has been watching TV since this morning.	彼は今朝からずっとテレビを見続けている。
2	関係副詞		Do you remember the day when we first met?	私たちが最初にあった日をあなたは覚えていますか。
3	形式目的語の it		Nobody thinks it surprising that he won the race.	だれも、彼が試合に勝ったのを驚くべきことだとは思っていない。